

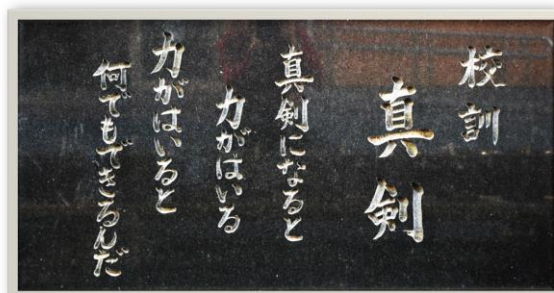
# 会 報

## 存在感を高める通級指導教室

浜松市立気賀小学校 校長 安藤 憲

本校は、創立 146 年を迎え、学校教育目標「生きる力を育てる気賀小教育の実現」を掲げて 39 年になります。その時々で、子供たちに身に付けさせたい「生きる力」を見直し、現在は「自他のよさを認め、自分を律し、何事にも主体的に関わり、たくましく生き抜く力」と押さえています。

また、長年にわたり、積み上げてきた良き伝統（気賀小の学校文化）を大切に、地域の拠点校としての自負を持ちながら、気賀らしい地域に根ざした学校づくりを進めています。そんな中で、子供たちが学校生活で大切にしているのが校訓「真剣」です。昨年度からは「ミッション・パッション・ハイテンション」の心意気を持つことが本当の「真剣」に結び付くと投げ掛け、浸透を図っているところです。



そんな本校に言語通級指導教室が開設されたのは、幼児が 13 年前、児童が 12 年前になり、北区を中心に指導の実績を上げてきました。校内退級審査における入級審査時の音声との比較では、格段の向上が感じられ、退級式で校長室を訪れ、自分の名前や国語の音読を聞かせてくれる子供たちの表情からは、真剣に指導を受け、その成果を実感している自信がうかがえ、「しっかり頑張ったね。」とつい声を掛けてしまいます。

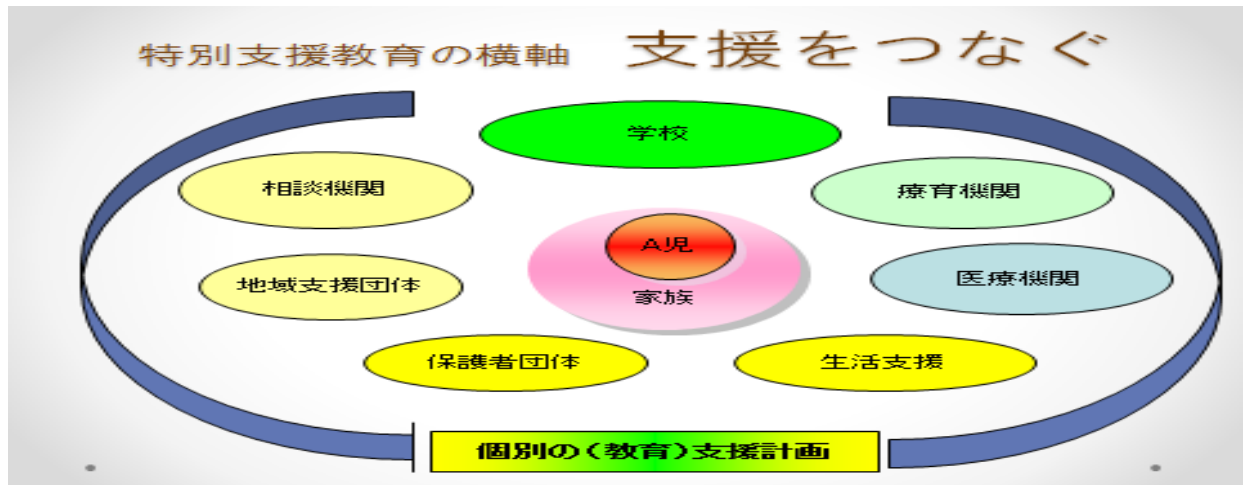
また、待望のLD等通級指導教室が開設されたのは、一昨年度です。年々相談件数が増加していることから、各校で対応に苦慮する子供たちが増加するとともに、入級した児童の変容から指導の有効性を実感していただき、その重要性に対する認知度が、ますます高まっていると感じています。

言語もLD等も担当する職員は専門職であり、丁寧なアセスメントに基づき適切な指導を行うとともに、在籍校との連携を大切にすることで、指導の効果を高める努力をしています。さらに、保護者との関わりが深いことで、多くの情報を得るとともに、保護者の不安を取り除きながら、指導内容への理解や協力を得やすい立場にあります。それが、校内での発達支援や就学支援の話し合い、校内研修でも大変役立っています。

全国の小中学生で通級による指導を受けている子供たちの数は約 109,000 人（H29）で、10 年前の約 2.4 倍になっているそうです。今後も増加が見込まれる中、一人一人のニーズに応じた指導を進めるためにも、通級指導教室そして担当者の存在は、学校経営において、大変大きな役割を果たしていると実感しています。

## 開かれた通級指導教室であるために

通級指導教室は、年々ニーズが増加しているものの、通級指導教室とはどのような存在で、どのような指導を行っているのかが周知されていないことが課題です。そこで、通級指導教室を「開かれた教室」にしていく必要があると考えました。「開かれた教室」であるために、担当者が通級校区の在籍校・関係機関・学級担任・保護者に通級指導教室の情報を発信した実践を紹介します。



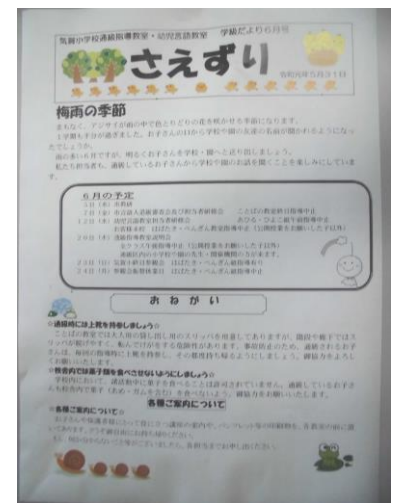
### <情報の発信>

#### 1) 教室だより「さえずり」の発行

月に1回発行する教室だよりは、保護者、校内職員はもとより通級校区すべての小学校・幼稚園・保育園に配布しています。

また、気賀小学校のホームページにも毎回アップすることで、より多くの方々に気軽に見ていただけるようにしています。

平成26年度からは、毎回年テーマを決めて、保護者に分かりやすいよう、「ことば」や「社会性」に関する話をシリーズで、掲載しました。令和元年度は、「通級Q&A」として保護者からの質問に対して、答える形で、掲載をしています。



#### 2) 関係機関訪問・パンフレット



年度当初に、連携を取ることが多い通級地域の保健センター、浜松市根洗学園等を訪問して、パンフレットなどを手渡しています。教室のパンフレットにより、関係機関の職員が、保護者に通級指導教室を勧める時に役に立ったという声や、具体的に教室でどのような指導が受けられるのか、時間は何時から何時まで行っているのか等が分かりやすかったという声も伺っています。こちらのパンフレットについても、気賀小学校のホームページに掲載しております。



### 3) 研究発表会や教室説明会での授業公開

通級指導教室での指導内容を多くの方々に知っていただけるように、発達支援教育コーディネーターが集まる「通級指導教室説明会」や、本校が毎年開催している「研究発表会」で、一般の先生方や、民生委員、地区の校長先生方、地域の方々に通級指導教室での指導を公開しています。公開により、通級指導教室の指導が具体的に分かったという感想をいただきました。



### 4) 在籍学級担任指導参観及び懇談会

通級児が指導を受けている様子を在籍学級担任が参観する機会を設けています。その後、担任と担当者との間で、個別の指導計画をもとに、これまでの指導や、今後の対応について話し合いをします。このことにより、在籍学級の担任と、担当との指導方針の共有化を図ることができていると思います。指導後の面談では、在籍学級の担任から、「指導内容が今の実態にぴったりでびっくりしました。カーとなるという〇〇さんの気持ちがよく分かりました。でも、気持ちを少し違う角度から見ると、違う捉え方ができるということも教えてくださっており、私もこちらでの指導内容を学校生活の場で生かせるようにしていきたいと思いました。」というコメントをいただきました。

### 5) 在籍校訪問

通級児童の在籍校での様子を拝見したり、在籍校の先生方に通級児に対して学級で支援できることを伝えたりするために、毎年1回在籍校訪問を行っています。LD等は全児童について、言語は在籍校の希望や児童の必要性に応じて行っています。在籍校訪問により、担当者と担任との指導方針を一致させることができます。

#### <実践の結果と今後の課題>

「開かれた教室」であるための様々な工夫を行った実践を行った結果、通級児童が在籍する学級担任に年度末に行ったLD等通級指導教室アンケートでは、「LD等通級指導教室との連携はできている。」の回答が90%以上でした。また、幼児ことばの教室や、通級指導教室（言語LD等とともに）には、保護者や、在籍園・在籍校から相談の電話がたくさん来ています。この結果より、実践が効果的であったと感じています。課題として、通級児童が在籍していない職員や、地域の方々への周知はまだ完全ではないため、今後は市教委の力も借りながら、担当者の実践も重ね続けていきたいと思っています。

